

第4回 2025年デフリンピック大会に係る大会準備連携会議
(議事概要)

1 開催日時

令和5年8月22日(火曜日) 11時00分から11時45分まで

2 開催場所

東京都庁第一本庁舎 42階北塔 特別会議室B

3 構成員等

○構成員

一般財団法人全日本ろうあ連盟	久松 三二	常任理事・事務局長
東京都	渡邊 知秀	生活文化スポーツ局次長
スポーツ庁	八木 和広	参事官(国際担当)
公益財団法人日本オリンピック委員会	星 香里	常務理事
公益財団法人日本パラスポーツ協会	藤原 正樹	常務理事 (欠席のため意見代読)
弁護士	三好 豊	
公認会計士	中村友理香	

○事務局

一般財団法人全日本ろうあ連盟
東京都

4 要旨

【挨拶】

○全日本ろうあ連盟 久松事務局長

- ・本日は、お忙しいところ、第4回2025年デフリンピック大会開催に係る大会準備連携会議にご出席いただき、感謝申し上げます。
- ・5月の第3回会議では、デフリンピック運営委員会の事業計画案、大会開催基本計画の策定に向けた進め方、及び令和5年度デフリンピックの都内気運醸成に向けた取組などについて皆様にご確認を頂いた。
- ・本日は、デフリンピック運営委員会からの報告のほか、アスリート会議の設置、大会概要等について、順次ご報告をさせて頂く。
- ・なお、JOCの靱井常務理事の退任に伴い、後任として星香里常務理事が新たに委員にご就任いただく運びとなったので、ご報告させて頂く。星委員、よろしく願います。

○JOC 星常務理事

- ・前々職で、スポーツ庁国際課にいた際に大会招致を担当しており、今回大会開催の方に

立場を変えて関わることについて縁を感じている。

- ・成功に向けて皆様と共に進んでいきたい、よろしく願います。

○全日本ろうあ連盟 久松事務局長

- ・本日公表する大会概要は、今後の大会運営における最初のステップとなるものであり、策定にあたっては、東京都及びスポーツ文化事業団とも協力し、とりまとめを行ってきたものであることから、代表して、都から説明をお願いします。

○東京都 渡邊次長

- ・都は本年2月、2025年に開催される世界陸上とデフリンピックを見据え、都が目指す姿をまとめた「ビジョン2025」を策定した。
- ・今年度に入り、4月にはデフリンピック大会運営組織を立ち上げ、8月には本格稼働を始めるなど、連盟とも連携し、大会準備を着実に進めてきた。
- ・本日、競技会場を含む大会概要をご報告できる運びとなった。
- ・大会ビジョンとして掲げる、あらゆる人が協働した大会運営や子どもたちの参画、デジタル技術を活用した新たなコミュニケーションツールの開発や社会への普及などに取り組むことが、全ての人々が輝くインクルーシブな街・東京の実現につながるものと考えている。
- ・都としても、この大会ビジョンに基づき、しっかりと大会準備等に取り組んでまいりたい。

○全日本ろうあ連盟 久松事務局長

- ・皆様、本日も忌憚のないご意見よろしく願いたい。

【資料説明】

○運営委員会における検討状況（デフリンピック運営委員会）

①2023年度事業「全国への気運醸成の推進事業」

- ・前回の会議では、デフリンピック・フェスティバルを全国8ブロックで行うことを確認いただいた。
- ・現在、8ブロックの開催申請について調整中である。
- ・実施方法は、地域ろう当事者団体からの開催申請を運営委員会が審査を行い、開催を決定するものであるが、開催にあたり、きこえない人ときこえる人の協働を通じた共生社会やつながりの実現を具体化するため、実施主体は地域ろう当事者団体と地域行政や関係機関との共催、もしくは地域ろう当事者団体主催、地域行政後援を得ることを基本としている。
- ・また、地域ろう当事者団体の開催取り組みや地域行政や関係機関との連携を後押しするため、地域ろう当事者団体へ、1か所10万円×8ブロックの合計80万円の助成を行う。
- ・また、ガバナンスの確保のため、その実施状況や収支会計、経費の使途等も、運営委員会として入念にチェックをしていく。

②2023年度事業「大会エンブレム制作」

- ・7月に国立大学法人筑波技術大学から、学生たちが制作したエンブレム候補案の提出

を受けた。

- ・これらの候補案を投票、大会エンブレム決定、発表の場となるグループワークを、9月3日に、東京都パラスポーツトレーニングセンターで、都内在住・在学の中高校生（ろう学校含む）に参加していただき、実施する。
- ・グループワークでは、候補案を制作した学生からのプレゼンを聞き、参加者同士の意見交換や、またデフアスリートとの交流を通じてデフリンピックへの理解を深め、候補案への投票を行い、決定・発表を行う。
- ・なお、候補案は既に公表されているものと同一または類似ではないこと及び第三者の商標権・著作権その他の知的財産権等の一切の権利を侵害するものではないことの確認、また第三者の登録出願を抑制するため、グループワーク前に商標の出願登録を行う必要がある。
- ・商標調査、出願業務に係る費用は、契約調達管理会議に付議する基準額を下回っているが、大会エンブレムという社会的注目事案であるため、契約調達管理会議に付議し、業者を決定した。

③2023年度事業「社会的・文化的プログラムの検討」

- ・社会的・文化的プログラムが、外国からの選手、観客等だけではなく、全国への気運醸成に資するプログラムとなるよう、きこえない芸術文化当事者団体や外部有識者等で構成する「検討チーム」の設置を予定している。
- ・検討チームは、全日本ろう者演劇協会事務局長の植野圭哉氏をリーダーに、委員はきこえない芸術文化当事者団体から2名、外部委員を2名と、計5名を予定し、調整している。
- ・9月から、検討チーム会議をほぼ毎月開催し、過去デフリンピック大会における社会的・文化的プログラムの調査を行い、東京2025デフリンピックの社会的・文化的プログラムを、2023年度内に策定したい。

○アスリート会議について（東京都スポーツ文化事業団）

- ・「大会開催基本計画」を作成するにあたり、障害当事者や有識者の意見を計画に反映させるため、「デフリンピック大会運営にかかるアスリート会議」を事業団内に設置した。
- ・メンバーは表の通りお引き受けいただけることになり、7月20日に第1回会議を開催し「大会概要」についてご議論いただいた。今後、9月、10月にも開催し、大会の開催基本計画策定に向けてご意見を伺っていく予定である。

○大会概要について（東京都）

- ・大会概要は、大会ビジョン、大会名称、競技会場などの主要な事項について、運営にかかわる三者でとりまとめ、公表するものである。
- ・記載事項は目次に記載の事項の通りである。
- ・「はじめに」では、日本で初めての開催であること、デフリンピック開催から100周年となる歴史に残る大会になることを記載している。

- ・「デフリンピックについて」では、大会の基本情報などを記載している。
- ・「大会ビジョン」は、招致時に作成した大会コンセプトをベースに、これまでろうあ連盟が積み上げてきた大会に向けた考え方や東京都の「ビジョン2025」などの要素を踏まえ作成している。
- ・ビジョン1「デフスポーツの魅力や価値を伝え、人々や社会とつなぐ」では、本来スポーツが持つ魅力とともにデフスポーツの魅力や価値を伝えることや、あらゆる人が参画する大会をめざすこと、
- ・ビジョン2「世界に、そして未来につながる大会へ」では、手話言語の理解・普及・拡大に加え、デジタル技術を活用した、新しいコミュニケーションツール等の開発・社会への普及を促進し、誰もが心を通わせることのできる街・東京の魅力を感じてもらい、世界との絆を深めていくこと、
- ・ビジョン3「“誰もが個性を活かし力を発揮できる”共生社会の実現」では、大会開催を機に、デフスポーツやろう者の文化への理解を促進し、障害のある人もない人も互いの違いを認め、尊重しあい、誰もが個性を活かし力を発揮できる共生社会づくりに貢献することなどを謳っている。
- ・「大会名称」については、過去大会を参考に、正式名称と略称を作成した。
- ・「大会エンブレム」については、9月3日の投票イベントで決定予定で、そのあと、決定後のエンブレムを入れたページを追加予定である。
- ・「準備・運営体制」については、これまでの会議等で説明してきたものを掲載しているため、説明は省略させていただく。
- ・「大会期間、参加国・選手数」については、現時点で想定される数字を記載している。
- ・「実施競技、競技会場等」については、招致時の会場から競技団体との協議を踏まえ、変更があった会場について説明する。
- ・開閉会式は、「駒沢オリンピック公園総合運動場」から「東京体育館」に変更。選手のコンディション維持に配慮し、気温低下や悪天候でも参加しやすい室内の開催とした。
- ・オリエンテーリングは、「伊豆大島」に加え、都心で開催できる一部の種目を「日比谷公園」で開催。
- ・射撃は、「警視庁術科センター」と「味の素ナショナルトレーニングセンター」の2か所を検討していたが、運営の効率化を図るため、「味の素ナショナルトレーニングセンター」に集約。
- ・水泳は、「東京体育館」から「東京アクアティクスセンター」に変更。施設の規模や最新の設備を活かし、ユニバーサルコミュニケーション技術を紹介するなど、都の事業を発信する場としても活用できると考えている。
- ・バレーボールについては、競技団体との協議の結果、より広い会場へ変更する必要性が生じたため、バレーボールとレスリングの会場を入れ替えて対応した。
- ・最後のページは、競技会場をマップに落としたものである。

【意見交換】

○東京都 渡邊次長

- ・今回このようなかたちで大会概要をご報告できる運びとなった、策定にご協力いただき感謝申し上げます。
- ・今後についても、しっかりとした体制を組んで準備を進めていかなければならないと考える。
- ・3月末に「大規模な国際又は国内競技大会の組織委員会等のガバナンス体制等の在り方に関する指針」を示していただいたとおりであるが、6月には東京都における国際スポーツ大会のガバナンス強化に向けた有識者会議が開催され、「国際スポーツ大会への東京都の関与のガイドライン」を改訂した。危機管理などの体制構築等、ガバナンスの更なる強化に資する取組が必要である。
- ・大会準備の本格化に向け、8月1日付で大会の運営実務を担う東京都スポーツ文化事業団に都から追加人員を派遣し、デフリンピック準備運営本部のより一層体制の強化を図ったところである。
- ・また、関係自治体や各競技団体との調整も進め、今般、競技会場を確定することができ、大会概要の公表につなげることができた。
- ・今後、連盟とも連携し、民間資金をしっかりと確保していきたい。併せて、政府のお力添えもお願いしたい。
- ・来月3日には、いよいよ大会エンブレムも決定する。今後はエンブレムを活用しながら様々な気運醸成事業を実施するなど、ろうあ連盟とも連携し、デフリンピックのさらなる認知度向上や大会の気運醸成につなげていきたい。
- ・引き続き、皆様のご助言、ご支援を頂きながら、円滑に準備運営を進めていきたい。ご協力をお願いします。

○スポーツ庁 八木参事官

- ・実感としては準備が徐々に加速しているように見受けられる。
- ・今回競技会場が決まったということは大きな成果であろう、国としても味の素ナショナルトレーニングセンターを使用いただくということで、可能な限り協力していきたい。
- ・3月末に策定した「大規模な国際又は国内競技大会の組織委員会等のガバナンス体制等の在り方に関する指針」をしっかりと遵守して準備を進めていただきたい。
- ・9月3日にエンブレムが決定するというので、エンブレムの決定といえは大会の象徴で大きなインパクトがあるかと考える。遺漏なきよう関係者へ情報提供を行っていただきたい。
- ・関係省庁への情報提供等について引き続き丁寧に行っていただきたい、計画が固まってくれば具体的なお願い事項もより固まってくるかと考えるため、そのあたりも遺漏なきよう行っていただきたい。

○JOC 星常務理事

- ・大会概要が策定されたとのことで、具体的に大会がイメージできるようになった。
- ・今後は具体的な準備に取り組んでいくということかと考えるが、世界陸上に続いて東京2025 デフリンピックが行われるということで、東京大会のレガシーとしての位置づけと

ということもあろうかと考える、東京大会で成しえなかった有観客で大会を開催するということについて最大限に効果を発揮していただきたい。

- ・世界中から集まるアスリートが安全かつ安心な大会であった、力を発揮できたと感じていただけるように準備を進めていただきたい。
- ・ビジョンのなかで「あらゆる人が協働した大会運営や子どもたちの参画」という書きぶりがあるが、渋谷区は東京大会パラリンピックの時に学校観戦を実施しており、それにより子どもたちが得た経験や共生社会に対する想いは非常に大きかったときいている。今回の開催地はかなり各地に散らばっているところであり、それぞれの自治体の教育委員会などと連携し、子どもたちがきこえるやきこえないに関わらず、この大会を通して共に障害のあるなしを超えて社会を創っていくということに繋げていけたら素晴らしい大会になるかと考える。

○三好弁護士

- ・リーガルな観点から一点だけコメントさせていただきたい。
- ・エンブレムのデザイン案の「TOKYO 2025」の記載について、IOC が保有する「TOKYO 2020」という商標権と抵触しないのかについて、専門家の意見など確認していただき、「TOKYO 2025」で問題ないということであればそれでよいかと考える。
- ・今回の大会の略称は「TOKYO 2025 DEAFLYMPICS」と認識しており、「TOKYO 2025」は略称ではないと考えるが「TOKYO 2025」を使用していくのかも含めて確認したい。「TOKYO 2025 DEAFLYMPICS」を使うのであれば問題ないかと考えるが、「TOKYO 2025」を使う場合は確認が必要かと考える。

○事務局（東京都）

- ・正式名称は「25th Summer Deaflympics Tokyo 2025」であり、エンブレムも「25th Summer Deaflympics」と「Tokyo 2025」で構成しており、正式名称通りとなっている。
- ・商標権の調査については、文字の部分も含めてろうあ連盟の方で弁理士と確認いただいているが再度、三好弁護士の指摘を受けて念のため確認は必要かと考える。

○全日本ろうあ連盟 久松事務局長

- ・各デザイン案については、商標権、著作権などの知的財産権について弁理士に調査委託し問題がないことを確認している。
- ・ご指摘については、ろうあ連盟にて専門家に確認していきたい。

○中村公認会計士

- ・全国8ブロックで開催予定のデフリンピック・フェスティバルについて、地域ろう当事者団体へ、1か所10万円×8ブロックの合計80万円の助成を行う予定とのことだが、ガバナンスの確保のため、その実施状況や収支会計、経費の使途等も、しっかりと検証していくとのことである。
- ・今後、調達のための契約等が本格化してくるが、予め決められた規程等に従った適切な執行や審議を行っていくように留意して進めていただきたい。

○JPSA 藤原常務理事（事務局代読）

- ・大会概要が公表され、ビジョンも決定したのは喜ばしいことだが、大会準備そのものの進捗がスケジュール通り進んでいることや、財政面での課題があればそれを解決していくことが今後重要となる。
- ・都や国の支援だけでなく、民間資金の獲得も今後ろうあ連盟が中心に行っていくことになろうかと思うので、その進捗も今後教えていただきたい。

【意見交換総括】

○事務局

- ・皆様からのご意見に感謝申し上げます。
- ・本日のまとめをさせていただきたい。
- ・運営委員会における検討状況、アスリート会議、大会概要の策定について、皆様にご確認を頂くことができた。
- ・次回は11月頃の開催を予定している。具体的な開催時期については改めて事務局から皆様にご連絡を差し上げる。

○全日本ろうあ連盟 久松事務局長

- ・皆様からのご指摘、ご意見も踏まえ、大会の成功に向けて準備を進めていきたい。今回の会議は、これで閉会とする。